

助産雑誌 Back Number

★バックナンバーのお取り扱いについて

- ① 2016年2月号以降の雑誌は、医学書院受注センター(TEL: 03-3817-5666)にて承ります。
- ② それ以前の号についてのご注文や在庫のご照会などは、下記をお願いします。
株式会社東亜ブック 〒178-0061 東京都練馬区大泉学園町 5-27-11
TEL: 03-5947-4781 FAX: 03-3923-4539



2018年1月号

特集

私の会陰保護技術を振り返る

会陰保護において、経験をつんだ熟練助産師と新人助産師ではどこに違いがあるのでしょうか。また、中堅助産師になると、他者から自分の技術を評価してもらう機会はなかなかありません。誌上で会陰保護技術の振り返りを行い、技術の極意をつきつめてみます。



2017年12月号

特集

周産期ボンディング障害を知っていますか？

周産期ボンディングとは、親から子への情緒的な絆のことを言い、アタッチメントとは異なる概念です。近年、日本においても話題にのぼるようになってきました。周産期ボンディングの基本的な知識や、臨床での事例にどう対応するかを発展的に学ぶ特集です。



2017年11月号

特集

ダウン症のある児をもつ親の将来の不安に寄り添う

ダウン症のある子どもを育てる親御さんの将来への不安は、計り知れません。出生直後に湧き出るその不安を、そばにいる助産師が少しでも軽減し、将来の見通しがアドバイスできるような情報を集めました。／特集2は ICM トロント大会のレポートです。



2017年10月号

特集

助産師は父親をどう支えるか

母親の負担を少しでも減らすためのキーパーソンは父親です。子どもを迎える家庭において、母親の心身をよい状態に保つために、助産師はどのように父親にアプローチすればよいのでしょうか。妻と夫の溝を埋めるための支援について考えます。



2017年9月号

特集

とても大事な産後2週間健診

研究結果をもとに母親のメンタルヘルスを重視して、2017年度から産婦健康診査事業で産後2回分の健診費用の助成が開始されました。本特集では、すでに産後2週間健診を実施している施設の実践例を参考に、早期の産後健診がいかに重要かを考えます。



2017年8月号

特集

大学院で助産を学び直す

臨床現場で湧き出した疑問を原動力に、大学院での学び直しを考えている助産師も少なくないようです。大学院教育の動向および展望、学び直すことの意義、そして実際に大学院で学んだ方に体験を語っていただきました。また、7つの大学院の特色についても紹介します。

2017年 特集

- 7月号 妊産婦の筋・骨格を理解して助産ケアへ活かす！
- 6月号 超音波検査の今と助産師のかかわり方
- 5月号 がんばってます、新人助産師教育
- 4月号 周産期のメンタルヘルスのために助産師ができること、すべきこと
- 3月号 産後ケアを成功に導くコツ
- 2月号 院内助産の新しい形 クリニック・病院併設助産所の取り組み
- 1月号 麻酔分娩に、どう向き合うか